からすとかがし

小川未明

青空文庫

太吉じいさんは、百姓が、かさをかぶって、手に弓を持って立っている、かがしをつくる名人でした。それを見ると、からすやすずめなどが、そばへ寄りつきませんでした。

それも、そのはずで、おじいさんは若い時分から弓を射ることが上手で、どんな小さな鳥でも、ねらえば、かならず射落としたものです。よく、晩方の空を飛んでいくかりを射落としたり、はたけで遊んでいるすずめを射とめたりしました。だからおじいさんを見ると、小鳥たちは鳴くのをやめて、どこへか姿をかくしてしまいました。

しかし、このごろは、おじいさんも目がわるくなって、ねらいがきかなくなりました。けれども、鳥たちは、弓を持って立っているかがしを見ると、やはりおじいさんのような、怖ろしい人だと思ったのです。

親鳥は、子鳥にいいました。

「あの、田の中に立っている人の手に持つのが、おじいさんや、おばあさんから、話にきいた、怖ろしい弓というものだよ。いつ飛んできて、あたるかしれないから、そばにゆかないがいい。」

子鳥たちは、たびたび、いいきかされたのでよく守っていました。

また、来年、稲の実るころになると、太吉じいさんは、新しいかがしを造りました。去年の子鳥たちはもう親鳥となって、同じように、その子供たちに向かって、

「あれは、弓というものだよ。」と自分たちのきいた、怖ろしい話をしてきかせました。こうして、鳥たちは、なるたけおじいさんのたんぼに近寄らないようにしていました。

ところが、物忘れをするからすがありました。きいた話を、すっかり忘れて、かがしの上にきて止まりました。そして、カア、カアと鳴きながらかがしの頭をつつきました。

これを見たすずめたちは、びっくりしてどうなるのかと目をまるくしていましたが、しまいに、

「なんだ、からすがとまってもなんでもないじゃないか。」といって、どっと押しよせてきました。そして、長い間自分たちをだましていた正体を見破ってしまいました。

「こんな、まがった竹がなんになるんだ。」といって、すずめたちは弓にとまりました。

旅をして帰った、じいさんの息子が、

「いまごろ、弓なんか持ったかがしなんてあるものでない。どこの田や、圃でも、鉄砲を持った、勇ましいかがしを立てている。」といいました。

これをきいて、太吉じいさんは、

「なるほどそうかな、弓なんて、なにするものか、昔の鳥は知っても、このごろの鳥たちは知るまいて。」と、いって、おじいさんは弓のかわりに、鉄砲を持って立っている、かがしをつくりました。

「見てくれ、これなら、いいだろう。」と、おじいさんは、ききました。

「ああ、よくできました。」と、息子は、答えました。これを見たすずめたちは、ふるえあがりました。

「あれは鉄砲だよ。近寄ると、ズドンといって、みんな殺されてしまうのだよ。」と、親すずめは子すずめにいいきかせました。

ところが、いつかの物忘れのからすがやってきて、かがしの上に止まりました。

「どうしたのだろうな。」と、おじいさんが、頸をかしげました。すると、そのからすは、

「知っていますよ、なにを持っても打てないことを。ばか、ばか。」といって、笑いました。

他の鳥たちは、からすの勇気に感心しました。いままで、ばかにされたからすが、いちばんりこうな鳥といわれるようになりました。そして、すずめたちは、かがしを侮って、稲を荒らしましたが、ある日、おじいさんの息子の打った、ほんとうの鉄砲で、みんな殺されてしまいました。

いつでも、ばかとりこうとは、ちょっと見分けのつかぬものです。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集　10」講談社
　　1977（昭和52）年8月10日第1刷発行
　　1983（昭和58）年1月19日第6刷発行
※初出時の表題は「烏とかゞし」です。
入力：特定非営利活動法人はるかぜ
校正：仙酔ゑびす
2011年12月1日作成
2012年9月27日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

からすとかがし

小川未明

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/